

ホオズキの生産性向上

東部振興局 生産流通部
有馬 義信

ホオズキは、ウィルス（TMGMV等）に感染しやすく、感染すると生育が悪くなり、著しく生産性が低下します。ホオズキ生産の苗は、前年の切り下株を利用する栄養繁殖によるものが主流でした。そのため、ウィルスを保有する親株を利用するケースが多く、生産性の低下が課題となっていました。

そこで、山香町花卉生産組合ホオズキ部会を対象に、平成25年度からウイルスフリー化を目的に、乾熱滅菌種子を利用した苗生産を重点的に指導をしてきました。

まず生産者の意識付けを行うため、25年度に「乾熱滅菌種子利用に係る苗生産」の実証ほを設置し、続いて、毎年講習会等を通して、乾熱滅菌種子の利用を呼びかけ、その利用を推進してきました。その結果、29年度はほぼ100%の生産者

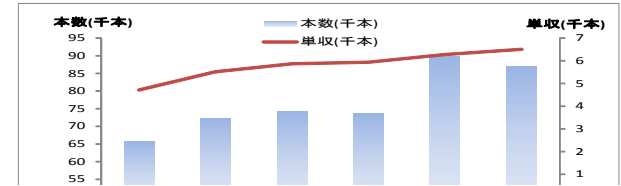
が利用して、単収が向上し、生産性の向上が図られています。

また、夏の花き展では、同部会の生産者が28、29年度と2年連続最優秀(1位)の成績を収め、品質的にも高い評価を受けています。



29年度 夏の花き展

出荷本数及び単収の推移(山香町花卉生産組合ほおずき部会)



アニマルウェルフェア鶏舎が竣工！

東部振興局 農山漁村振興部
松浦 由美子

認定農業者である日出町の(有)鈴木養鶏場では、日本版アニマルウェルフェア(快適性に配慮した家畜の飼養管理)に基づいたウィンドレス鶏舎を導入しました。これは、採卵鶏農家では県内唯一の取組です。

アニマルウェルフェア方式の鶏舎とは、適切な飼養スペースや温度、照明の明るさを保つことで鶏が快適な環境で過ごせるように工夫されたものです。本方式で生産された卵は県内量販店での売れ行きも好調で、消費者からの要望も高まっています。

今回整備された鶏舎は、鶏1羽当たりの飼養スペースが762cm²と平均的な鶏舎の1.7倍の広さが確保されており、暗くした産卵場所や止まり木も設置されています。これにより、採卵鶏がのびのびと過ごし、ストレスを軽減させる飼養管理が

可能となっています。

振興局は、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業で施設整備による規模拡大の支援を行いました。今回整備された鶏舎で生産された健康的な卵が、より多くの消費者に届けられることを期待しています。



快適性に配慮した鶏舎外観



のびのび過ごせる鶏舎内部

石仏溜池の完成記念式

日出水利耕地事務所
房前 慎一

ため池改修工事が完了した杵築市山香町広瀬にある石仏溜池の完成記念式が、7月28日に受益者及び関係者参加のもと開催されました。

本地区は、農事組合法人「大久」が設立されており、農業に対する意欲が高い地区です。受益面積は、約10.0ha、貯水量は約43,100t、ため池が決壊した際の被害額は、約2.7億円と想定されています。平成27年10月よりため池改修工事を

実施し、平成29年6月に完成しました。完成後のため池の規模は、本堤の堤長L=93.8m、堤高H=10.3m、側堤の堤長L=70.2m、堤高H=6.8mです。本堤と側堤がある珍しいため池で、地元は積極的な営農を行っています。

今後も受益者の意見を取り入れ、安全・安心で、地元で親しまれるため池整備を適切に実施し、農業の一端を担えるように取り組みます。



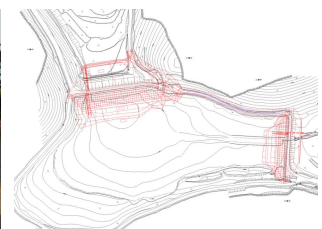
石仏溜池(本堤)



石仏溜池(側堤)



記念碑除幕式



平面図

杵築市全域の地域農業をサポートします

東部振興局 集落営農・水田班
赤野 和恵

「杵築市地域活性化センター」は、農作業の受委託支援を目的として平成9年に設立され、無人ヘリ防除等の農作業受委託、水稻や花苗等の育苗、堆肥センター運営等幅広く事業を展開しています。

この他にも、杵築市が進めている農福連携（要保護児童の農業研修受け入れ）、薬用植物の試験栽培、SGS（粳米サイレージ）の試験製造を行っており、地域農業振興の拠点として大きな役割を果たしています。

今回、活性化センターが地域農業経営サポート機構として認定されたことをきっかけに、杵築市集落営農連絡協議会会員である21組織と連携して、農地の利用調整、雇用の相互補完、オペレーターの資質向上のための資格取得、資材の共同購入などの取り組みを進め、活動エリアを山香から

杵築市全域に広げ、担い手がない地域へのサポートを拡充していきます。



東京生薬協会の協力で薬用植物の試験栽培が実現
